

UEC·NOW

電気通信大学はいま

電気通信大学や目黒会の様々な取り組みの中から、特に産業や社会との関係性の高いニュースをピックアップ。新たな価値創造に向けて力強い歩みを続ける電気通信大学の「今」をレポートします。

CONTENTS

- ① キャリア教育ボランティアの支援とウェブ活用、授業改善で質的向上を図る
- ② 平成19年度 就職委員会活動報告

UEC·NOW ①

キャリア教育ボランティアの支援とウェブ活用、授業改善で質的向上を図る

電気通信大学 地域・産学官連携推進機構 客員教授 竹内 利明

1. はじめに

本学のキャリア教育は、平成17年度から自由科目として導入、平成18年度から文部科学省特別教育研究経費（教育改革）に「理工系専門大学における1年生から始める産学官連携によるキャリア教育」として採択され5年間の予定で財政的支援を受けている。また、「平成18年度に係る業務の実績に関する評価の結果について」（平成19年10月5日、国立大学法人評価委員会野依良治委員長）において「平成17年度に初めて開講した『キャリアデザインA』に加え、学部2年生を対象にした『キャリアデザインB』を開講し、多数の社会人ティーチング・アシスタント（TA）とのウェブサイト討論を活用しつつ、社会人基礎力としてのプレゼンテーションスキルの開発、発想能力の啓発を行っている。」という

評価が得られた。更に「国立大学法人・大学共同利用機関法人の改革推進状況（平成18年度）」においても電気通信大学としては唯一「学生支援の充実」に「就職支援、キャリア教育等の充実」が掲載された。このような外部の高い評価を実績に、電気通信大学の特徴ある教育として、自由科目から選択科目や必修科目への変更を目指しているので、皆様のご支援をお願いしたい。

2. キャリア教育の目的

本学のキャリア教育は、学生に対して早期に将来の職業について考えさせ、目標を具体化する努力の必要性に気づかせると共に、社会全体に広く目を向けさせる。結果として大学教育の意義を再認識させ、勉学意欲を増進し教育効果を高めることを目的としている。特に1年生は大学受験



キャリア教育を担当する竹内容員教授



皆川容員准教授の講義風景

をクリアした直後だけに目標を失いがちで、具体的な目標を早く見つけさせることが重要になっている。

3. キャリア教育の特徴

本学のキャリア教育は、キャリアデザイン（1～3年生）と、インターンシップ、ベンチャービジネス概論（3年生）から構成されている。ここではキャリアデザインの概要と特徴を報告する。

《キャリア教育の概要》

①社会人講師の講義

産業界で活躍する社会人講師の講義から産業界が求める人材像（主として技術者像）を理解する。

②事業所見学

夏休み最終週に企業の協力を得て実施している。学生は複数の見学先から関心の高い企業を選び参加する。実際に企業の見学をすることで仕事（職業）と企業の実情を垣間見ることができ、具体的には会社概要の説明、工場やオフィスの見学、若手技術者との意見交換などの3時間のプログラムで実施している。平成19年度は、日立製作所、マイクロソフト、SONYなど19の事業所の協力を得て実施した。

③自己の個性、価値観を理解

職務適性テスト等で客観的に自分を知り、少人数に分かれてのワークショップを通じて、自己理解を深めながら、それぞれのキャリアデザインマップを作成する。

④職業人の資質、能力

技術者に求められる基本的素養について、講義及びプロジェクト演習により体験的に身につける。

⑤インターンシップ

早期のキャリア教育により、自発的にインターンシップに参加する学生が増加することを目標の一つにしている。

《きめ細かな支援を実現する教育体制》

キャリア教育は個別指導要素が高く、教員一人当たりの学生数が少ないことが望ましい。しかし、大学教育で導入するからには、より多くの学生を効果的に教育する体制を構築する必要がある。そこで平成18年度から、産業界のOB人材を中心にキャリア教育ボランティアを非常勤の教務補佐員として採用し、交通費と若干の謝金でお手伝いしていただいている。平成19年度は23名のボランティアが、1～3年生の学生と共に講義を受講し、きめ細かく支援する体制を構築した。ボランティアには本学の卒業生もおり、熱心に指



教育ボランティアによる講義後の勉強会



キャリアボランティアを担当する非常勤講師と教育ボランティアの皆さん

導にあたっていただいている。本誌をご覧の皆様も、興味をお持ちいただければ、ぜひ共に学生の指導にご協力いただければと願っている。
(26 ページ募集要項欄をご参照ください。)

《キャリア教育情報システム》

もう一つの特徴として、独自の「キャリア教育情報システム」を導入している。本学のキャリア教育は、より多くの学生を教育したいと考えているが、学生個々に対するきめ細やかな対応が重要と考え、その実現のためにこのシステムを導入している。具体的にはウェブに学生毎のマイページを設け、ここに書き込まれた学生の質問や講義の感想に、教育ボランティアがアドバイスするシステムを採用している。担当する学生は10～20名程度である。新入生はパソコンを持っていないケースも多いので、携帯電話のメール機能を使えるようにした。携帯電話を持っていない学生は、授業中はキャリア教育ボランティアのパソコンでサポートし、授業終了後は大学内の共有パソコンを使ってシステムにアクセスすることを可能にしている。ウェブにはeラーニングで講義がアップされるので、講義を休んだ学生や、復習したい学生も活用することができる。本システムが学生と教員のインタラクティブ性を高めるツールになることを目指し、さらに改善していく予定である。

4. 授業改善による質的向上への取り組み

本教育の企画段階から、システム工学科椿美智子准教授に参画していただき、キャリア教育の学生アンケートを設計、実施した。その測定結果を解析し、多変量的関連、経時的変化を捉えながら評価を行い、キャリア教育の効果を検討、その結果を講義に反映することで、授業内容を改善し、理工系大学の先進的キャリア教育を確立することを目指している。また、ワークショップ形式の授業は、狙いを明確にして授業に取り組んでいるが、限られた時間であるだけに、学生がどれだけ体得することができたのか常に不安を感じる。そこで、ワークショップ終了直後に講師とボランティアが集まり、今回の反省と今後実施する場合に配慮すべき事項等を議論している。議論はいつも白熱したものであり、協力いただいている講師、ボランティアの方々には深く感謝している。キャリア教育は、大学教育における新しい取り組みであり、確立されたものはまだない。特に、理工系学部における取り組みは、文系学部より遅れている傾向があり、理工系特有の問題も多い。今後、更によりよい教育を目指して改善して行くためにも、皆様のご支援、ご指導を賜りたい。